

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3043636号

(45) 発行日 平成9年(1997)11月28日

(24) 登録日 平成9年(1997)9月10日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 4 G 23/08			E 0 4 G 23/08	A
B 0 2 C 1/02			B 0 2 C 1/02	A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平9-4444

(22) 出願日 平成9年(1997)4月22日

(73) 実用新案権者 597074860

蒔田 光則

千葉県市川市新浜1丁目25番13号

(72) 考案者 蒔田 光則

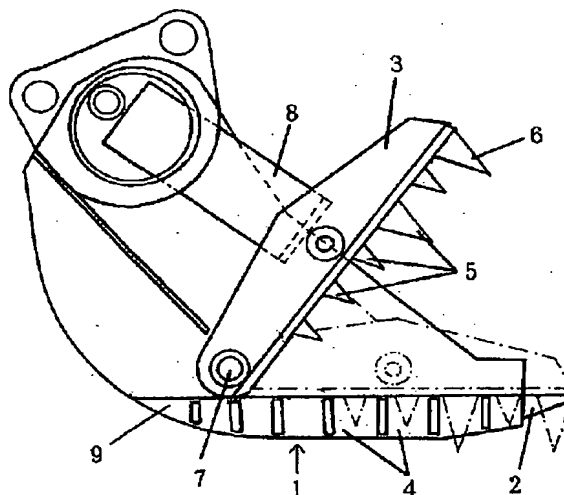
千葉県市川市新浜1丁目25番13号

(54) 【考案の名称】 スケルトンバケット型コンクリート破砕機

(57) 【要約】

【目的】 コンクリート破砕機をスケルトンバケット型にすることにより、被圧碎物の破砕作業の能率化を計る。

【構成】 バケットの底部を格子状に構成したスケルトンバケット1に複数の爪を備えた可動フレーム3を取り付け、可動フレーム3はシリンダ8を操作して軸7を支点に開閉する。複数の中爪5はスケルトンバケット1の底部格子す目4に、おさまるように形成する。先端部の爪2と爪6は噛み合うように形成し、スケルトンバケットの背部にはエッジ9を取り付ける。



BEST AVAILABLE COPY

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 バケットの底部を縦横の固定梁部材で格子状に一体構成したスケルトンバケットに、スケルトンバケットの格子ます目に納まるように複数の爪を設けた可動フレームを取り付け、油圧シリンダによりスケルトンバケットの格子部と可動フレームとでコンクリートガラを挟んで押圧破碎する、スケルトンバケット型コンクリート破碎機。

【請求項2】 バケットの底部を縦横の固定梁部材で格子状に一体構成したスケルトンバケットに、スケルトンバケットの格子ます目に納まるように複数の爪を設けた可動フレームを取り付け、可動フレームの先端の爪と、スケルトンバケットの爪を噛み合わせるように形成し、先端部でもコンクリートガラや鉄筋などを破碎および掴むことが可能なスケルトンバケット型コンクリート破碎機。

*

2

*【請求項3】 バケット型の背部にコンクリートガラや鉄筋などを後方に寄せやすくするためのエッジを取り付けたことを特徴とするアタッチメント。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施例の側面図である。

【図2】 本考案の実施例の平面図である。

【符号の説明】

1 スケルトンバケット

2 爪

3 可動フレーム

4 格子ます目

5 中爪

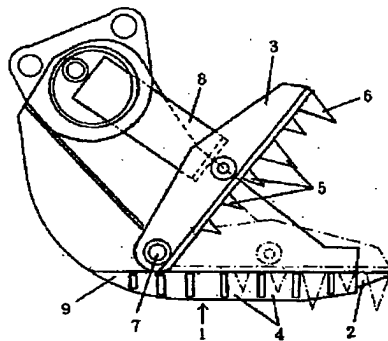
6 爪

7 軸

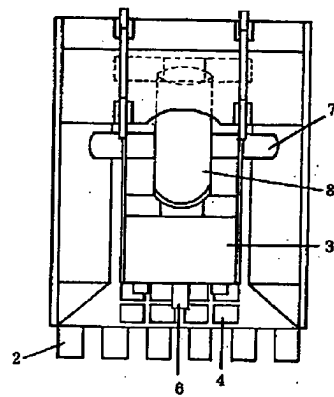
8 シリンダ

9 エッジ

【図1】



【図2】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、ショベル系建設機械に装着されるフロントアタッチメントに関し、建築物の解体などの二次破碎に使用する破碎機に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来建設機械に取付けられた破碎機でコンクリートガラを破碎した後、別の建設機械に取付けられたスケルトンバケットである、スケルトンバケットの格子ます目に通らなかった大きいコンクリートガラを再び破碎機で破碎していた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

従来は破碎機だけでコンクリートガラを一定の大きさ以下に揃えるためには、何度も破碎作業を繰り返さなければならず、そのため従来スケルトンバケットを装着した建設機械によるふるい作業を必要とし、スケルトンバケットの格子ます目に通らなかった大きいコンクリートガラを再び破碎機で破碎するという二度手間を強いられていた。

【0004】

また、従来のバケット及びスケルトンバケットの形状では、コンクリートガラを後方に押す場合、アールがついているのでコンクリートガラの上にバケットが乗りあげてしまうことが多く使いづらかった。

【0005】

本考案は、コンクリートガラや鉄筋なども掴んで移動でき、かつ一度に多くのコンクリートガラを押圧破碎するだけで、破碎とふるうという従来は別々に行っていた作業を、同時に効率よく行なうことができ、またコンクリートガラを後方に寄せる場合の作業効率の向上など、使用範囲の拡大したコンクリート破碎機の提供を目的としている。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

本考案は以上の目的を達成するために、破碎機の形状をスケルトンバケット型にし、スケルトンバケットの爪と可動フレームの先端の爪を噛み合わせるように形成し、スケルトンバケットの格子部と複数の爪を設けた可動フレームとでコンクリートガラを押破碎するよう形成する。

【0007】

また、スケルトンバケットの背部にはエッジを取り付ける。

【0008】

【作用】

以上のスケルトンバケット型コンクリート破碎機を油圧ショベル等のバケットアームに取り付け、スケルトンバケットですくいあげた種々の大きさのコンクリートガラを可動フレームで押圧破碎し、格子ます目を通すことにより一定以下の大きさのコンクリートガラを得ることができる。

【0009】

また、先端部ではスケルトンバケットの爪と可動フレームの先端の爪を噛み合わせるように形成する事により、コンクリートガラや鉄筋なども掴んで移動することができ、またスケルトンバケットですくい上げずに破碎することもできる。

【0010】

スケルトンバケットの背部にはエッジが取り付けられているので、コンクリートガラの上にバケットが乗り上げずにコンクリートガラや鉄筋などを後方に寄せることができる。

【0011】

【実施例】

図面に示す実施例において、スケルトンバケット1はバケットの底部を縦横の固定梁部材で格子状に一体構成してあり、先端には爪2が形成されている。

【0012】

可動フレーム3はスケルトンバケットの格子ます目4に納まるように複数の中爪5を設けてあり、可動フレーム3の先端の爪6は、スケルトンバケットの爪2と噛み合わせるように形成する。可動フレーム3は軸7に駆着し、シリンダ8を操作して軸7を支点に開閉する。

【0013】

スケルトンバケットの背部にはエッジ9が取り付けてある。

【0014】

上記のようなスケルトンバケット型コンクリート破碎機を取付けた油圧ショベル等により、スケルトンバケット1で種々の大きさのコンクリートガラをすくい上げ、格子ます目を通して大きさのコンクリートガラは下方に落下し、それ以上のコンクリートガラはスケルトンバケット1の内部に残る。

【0015】

そこで、内部に残ったコンクリートガラを可動フレーム3で押圧破碎することで、強制的に格子ます目4を通して落下させる。

【0016】

また、先端部では可動フレーム3の先端の爪6とスケルトンバケットの爪2を噛み合わせる事により、コンクリートガラや鉄筋なども掴んで移動することができ、スケルトンバケット1ですくい上げずに破碎することもできる。

【0017】

コンクリートガラや鉄筋などが前方へ寄せられてきてしまい、コンクリートガラを後方に寄せなおす場合は、スケルトンバケットの背部のエッジ9の部分で押すことができる。

【0018】

【考案の効果】

本考案によれば、破碎機をスケルトンバケット型にしたことで一度に多量のコンクリートガラをすくいとることができる。またコンクリートガラを強制的に格子ます目を通してすることで一定以下の大きさに押圧破碎することができるので、スケルトンバケットを必要としない。従って破碎に要する時間を短縮して破碎作業を能率化することができるうえ、従来のスケルトンバケット使用時に比べふるうという動作がないので振動及び騒音を軽減することができる。

【0019】

また、先端部ではコンクリートガラや鉄筋なども掴んで移動でき、スケルトンバケットですくい上げずに破碎することもできるので、使用範囲が拡大できる。

(6)

実登3043636

【0020】

コンクリートガラや鉄筋などを後方に寄せる場合の作業効率が向上する。